

令和6年度 学校評価自己評価表（中間）

三次市立三次小学校

		【達成度】＝達成値／目標値×100		【評価】A≥100, 80≤B<100, 60≤C<80, D<60							
領域	中 期 経営目標	短 期 経営目標	目標達成のための 主な方策	評価指標	目 標 値	中 間		年度末		結果と課題の説明	改善計画
						達成値	評価	達成値	評価		
確かな学力の育成	学力の 定着・ 向上	基礎学力の 向上	□朝のドリルタイムでは、認知機能強化のドリルを取り入れ、授業では集中して取り組む時間を設けて定着を図る。	◆単元末テストの「数と計算」領域の「知識・技能」の項目の平均正答率を75%以上にする。 ◆市学力到達度検査で平均正答率70%以上にする。	75% 以上 70% 以上	90.1% 120.1	A			平均正答率を75%以上にする目標を達成することができた。児童の実態に応じてドリルタイムを行ったり、給食準備時間に学力補充を行ったりしたことで、昨年度よりも正答率が上がった。しかし、昨年同様、学年が上がると平均正答率が低くなる傾向は変わらない。	引き続き、ドリルタイム等で学力補充を行ったり、授業始めに計算練習を行ったりする。また、授業で基礎基本の力が着実に身につくよう、授業改善をすすめる。
		育成すべき資 質・能力の向 上	□「主体性」「協調性」「表現力」を意識した単元構成の工夫 □聴き合い、伝え合う授業づくりや自分の思いを伝えることができる学級風土の確立	◆総合質問紙調査（コミュニケーション能力、協調性、主体性）の項目で肯定的に答えた児童の割合を70%以上にする。	70% 以上	75.3% 100.4	A			3観点の平均は70%以上であった。主体性は82%、協調性は74%と70%以上であったが、コミュニケーション能力は、69.7%と70%に達していなかった。 自分の意見は言えるが、友達の見解に対して質問したり、友だちの意見に付け加えて発言したことに課題がある。	昨年同様、自分の思いなどを伝えても大丈夫という学級の雰囲気作りを行う。また、意見を言ったり聞いたり質問したりする経験を積んでいくために、様々な学習の場面で、グループで話し合う機会をつくる。
豊かな心の育成	社会性、自己認識の向上	生徒指導諸問題の未然防止	□挨拶および始業時間厳守の徹底 □いじめの根絶及び未然防止の取組	◆児童アンケートの評価において、「自分から挨拶ができる」児童の割合を75%以上にする。	75% 以上	85.7% 113.6	A			児童のあいさつに対する自己評価は比較的高い状況にある。児童会執行部を中心とした登校時の「あいさつ運動」や、「あいさつ名人の表彰」のように肯定的に評価する場を設けていることが効果的であったと考えられる。しかし、高学年になるにつれて自己評価の肯定値が低くなる傾向にあることが課題である。	肯定的な評価を継続しつつ、より質の高いあいさつができる児童を育成していくために、児童会の月目標と関連させて取組を進めていく。 また、あいさつ運動の取組を児童会執行部だけでなく、高学年児童にもボランティアを募り、あいさつの意識を高めていく。
		児童会活動の活性化	□児童会熱血宣言によるめあての設定と振り返り	◆熱血宣言達成率で全校平均85%以上 ◆総合質問紙調査（自己認識・社会性）80%以上	80% 以上 75% 以上	【熱血宣言】 93.7% 117.1 【質問紙】 85.9% 114.5	A			児童会熱血宣言については、執行部で月目標を設定し、毎月強化週間を決めて取り組むことができた。目標の内容によって結果は変わるが、比較的高い水準を維持できている。 総合質問紙調査については、ほとんどの学年で目標に近い数値には達している。しかし、「社会性」の内容に関しては、目標値を下回っている学年もあり、現状として、ルールが守れなかったり、コミュニケーション不足からトラブルを起こしたりする状況がある。	児童自身が正しく判断し、その場に応じたふさわしい行動ができるよう、指導・ふりかえりを継続して行う。よりよい行動については、肯定的に評価していくことで価値づけしていく。学校全体の課題については、児童会で取り上げ、目標として取り組む。
健やかな体の育成	自律的な生活習慣の定着と体力の向上	基本的な生活習慣の充実	□生活づくり週間の取組 ・中学校定期試験期間中に生活づくり週間の取組（起床、就寝時刻・朝食摂取・メディアコントロール） □みよし学園健康教育部会の取組を中学校区で共有して実施する。	◆メディアコントロール実施達成率（生活づくり週間アンケート）80%以上	80% 以上	87.4% 109.3	A			メディアを適切に利用できる力を身に付けるためには、メディアの長時間利用による体への影響を理解し、自分でルールを決め守ることが必要である。中学校の定期試験期間中に生活づくり週間を設定し、「食事中、学習中」「夜9時以降」「1日2時間まで」「帰宅してから」ノーメディアとレベルを設け、自分で選び意識して取り組ませた。自分で目標設定したり、メディア以外の過ごし方の工夫をしたり、家庭でメディアの利用を考える機会となった。	長時間のメディア使用の体への影響や使い方、ルール、家庭でメディア以外の過ごし方の保護者啓発も含め、継続して取り組む。
		健康安全意識と体力の向上	□体育科、体力づくり運動の工夫と充実 ・主運動と関連づいた体力づくり運動の計画実施 ・委員会等を利用した全校での体力づくりの取組	◆体力・運動能力調査（前年度の国・県平均以上の項目の増加） ◆児童の自己評価アンケートにおいて運動やスポーツが好き、体育の授業が楽しいと答える児童の割合を80%以上にする。	80% 以上	55.6% 992.8 アンケート未実施	A			生涯にわたり健康な活力ある生活を送るために、子どもの頃から主体的に運動する習慣を身につけ、基礎的な体力を養うことが重要と考える。体育の授業では、グラウンドが制限されているが、場の工夫をして十分な運動量を確保する工夫をしている。体育委員会が遊び方の工夫の掲示をし、外遊びに行こうとするきっかけづくりになった。 【体力・運動能力調査結果 第5学年 R5:1/18→R6:10/18】 今年度は、三次中学校で運動会を実施した。楽しく体を動かすことを目標とし、限られた場所、期間で集中して取組めるように工夫をした。エール交換では、学校全体で「運動会を盛り上げよう」という意識を高めることができ、上学年が下学年をリードして動く姿がみられた。運動会後には体を動かすことの楽しさや仲間とともに最後までやり切れたことを実感している感想が多くあった。	運動能力の向上とともに、運動が苦手な児童にも運動の楽しさを味わわせるために、体力づくり運動を継続して行ったり、スモールステップで感覚・技能を身に付けさせる。また、できたことやチャレンジしている姿を積極的に褒めることで自信を持って活動できるよう支援する。 運動会で感じた、達成感や仲間との協力することで得た成功体験などを今後、児童会や体育委員会と連携し活動に繋げる。
信頼される学校	コミュニティ・スクールとしての関心度・信頼度の向上	小中一教育の充実・発信	□各学年1回以上、地域・家庭と連携したキャリア教育の実施	◆各学年1回以上、地域・家庭と連携したキャリア教育を実施し、学校・学級だより等やHPにおいて情報発信をする。	各学年1回以上	100% 100	A			地域・家庭と連携したキャリア教育を計画している。これまでに、地域・家庭と連携した内容を見直しながら、実施済。今年度中に、各学年1回以上実施する予定である。	地域・家庭と連携したキャリア教育の実施内容を、家庭や地域へ発信する。来年度に向け、改善していく。
		地域から学校への満足度・信頼度の向上	□学校・学級だより等やHPにおいての情報発信	◆保護者アンケートで本校教育に対する肯定的評価の割合を80%以上にする。	80% 以上	87.3% 109.1	A			保護者、地域へ学校、学級での取り組みの様子を伝えるため、学校・学級だよりの発行に、計画的に取り組むことができた。HPの更新が計画的にできていなかった。	計画的に学校、学級での取り組みの様子を伝えるため、学校・学級だよりの発行、HPの更新をし、地域・保護者へ情報発信を行っていく。